

稲わらを早期にすき込みましょう！

稲わら早期すき込みにより、『地力増進効果』等の効果が期待できます！

地力増進効果

近年は、稲作期間全般が高温・多照で推移しており、特に、出穂期から登熟期間における高温条件は、後期栄養不足や稲体の活力低下による登熟不良を招き、品質低下の大きな要因となっています。そのため、稲わらのすき込みやたい肥・土づくり資材の施用による地力増進が重要となります。

すき込み時期

稲わらは、地温が高い時期にすき込むことで分解が促進されます。すき込みは、収穫後できるだけ早く、地温が高いうちに行い、遅くとも10月中旬までに実施してください。また、たい肥や土づくり資材の施用は、土壌微生物の働きを活性化し、稲わらの分解を促進する効果もあります。たい肥や土づくり資材を散布する場合は、散布後にすき込みを実施してください。

すき込み方法

稲わらの分解に必要な酸素供給や春先の土壌の乾燥促進等を考慮し、耕深は5～10cmの浅耕としてください。湿田や冬季に湛水しやすい水田は、排水溝を作ります。

早期すき込みは、地力増進効果以外にも、いもち病・紋枯病等の病害虫抑制や雑草抑制の効果等、様々なメリットがあります。

病害虫抑制効果

雑草抑制効果

浮わらの抑制

水路等への流出抑制

こぼれ粃による品質低下の抑制

根腐れの原因となるガスの発生の抑制

稲刈りの季節は、台風が接近しやすい時期でもあります。稲刈り後の稲わらをそのままにしておくと、台風等で雨が降った時、側溝や水路に詰まって浸水被害を拡大させることがあります。収穫後は、乾燥・調製等で忙しい時期ですが、できるだけ早期にすき込みをしていただきますようお願いいたします。

《問合せ先》

ひたちなか市 経済環境部 農政課 農業振興係 Tel：029-273-0628